

第 65 回 火力専門委員会 溶接分科会 議事録

1. 日 時：2015 年 5 月 18 日（月） 13 時 30 分～17 時 40 分
2. 場 所：東京大学工学部 8 号館 222 会議室
3. 出席者：青山（東大）、樺田（MHPS）、茂田井（東電）、大橋（中電）、長谷川（発電技検）、逢澤（MHPS 日立）、飯島（日溶協）、水谷（東工大）、幅野（IH）、原田（東芝）、川端（関電）
欠 席：飯田（東電）、山下（神鋼）、
オブザーバー：鈴木（東電）
事務局：原

4. 配付資料

- 65-1 第 64 回溶接分科会議事録（案）
 - 65-2-1 火力専門委員会書面投票結果報告
 - 65-2-2 規格委員会書面投票意見と対応案
 - 65-3 追補原稿案（前回配布 64-7）
 - 65-4-1 審議履歴表
 - 65-4-2 VI 章 アーティクル 7（JWES）修正分のみ
 - 65-4-3 VII 章 アーティクル II（MHPS）修正分のみ
 - 65-4-4 VII 章 アーティクル I（関電）修正版
- ＜前回配布資料＞
- 64-8-2-1 VI 章 アーティクル 7（JWES）
 - 64-8-3 VII 章 アーティクル I（関電）
 - 64-8-4-2 VI 章 アーティクル 2（東芝）
 - 64-8-5 VII 章 アーティクル IV（東電）
 - 64-8-6 VI 章 アーティクル 1（発電技検）

5. 議事

- （1）前回議事録確認 [資料 65-1]

前回議事録（案）について確認を行い、議事録（案）が承認された。

- ・ 5. (4) (4-2) 3) 発電技研 → 発電技検（誤字修正）

（2）報告事項

- （2-1）発電用火力設備規格追補案書面投票報告 [資料 65-2]

○火力専門委員会書面投票結果報告

事務局より、資料 65-2 により火力専門委員会の書面投票 No66, No67 および No67 の意見対応案に関するメール審議結果について報告があった。5 月 11 日のメール審議可決により、火力専門委員会における追補改訂案は確定し、発電用設備規格委員会の書面投票へ進むことになった。

○ 発電用設備規格委員会投票状況報告

5 月 11 日から 6 月 9 日の期間で書面投票中である。5 月 18 日朝現在において、賛成票 2 票、保留・反対票なし、未投票 25 票となっている。

(4) 審議事項

(4-1) 発電用火力設備規格追補案

1) 追補版原稿の確認

[資料 65-3(資料 64-7)]

- T120.1 の注 3 における「および ACCP[Revision3(November1997)];” ASNT Central Certification Program;”」は JSME2012 年版において削除すべきものが残っているものであるので、誤記と判断して削除することを再確認した。
- 現在発電用設備規格委員会の書面投票中であり、意見対応により追補案が修正される可能性がある。規格委員会の書面投票が終了し、公衆審査に入る段階で、改訂原稿の最終確認をお願いする予定。

(4-2) レビュー票審議

1) 第Ⅵ章 アーティクル 7(飯島委員)

○ T-710~T-777.2 のコメント反映

[資料 65-4-2-1,2]

- ・ T-751 詳細規定においては、溶接部及び開先面の試験について、磁化方法を(a),(b),(d)に限定せず、(c),(e)も取り入れることとする。したがって、ただし書きは削除する。基本規定における扱いは、継続審議とする。
- ・ T-764.2 磁場の妥当性確認の人工シムについても、詳細規定では B 形、C 形のみに限定しないこととする。基本規定の扱いについては継続審議とし、JSME-2012 等の JESC における省令適合性審査時の説明資料を確認する。

○ T-777.3~

[資料 64-8-2-1 P46~]

- ・ T-777.3 「fluorescence-enhancing filter glass」 現在は、「蛍光強化フィルタめがね」としているが、適切な訳を工夫する。
- ・ 全般 代替え → 代替 とする。(用語の統一)
- ・ T-741 改訂案どおり、渦流試験法 → 渦電流試験法 とする。
- ・ 図 T-764.2(b)(1) B 形人工シムの厚さは、0.06 → 0.05mm とする。

- ・図 T-766.1 の名称 BELZ → BETZ (誤字修正)

2) 第Ⅵ章 アーティクル 2 (原田委員) [資料 64-8-4-1]

- ・Ⅱ-286 “asymmetrical” の表現について 内容などから「不均一な」 → 「非対称な」の方が適切と判断し、修正。

3) 第Ⅶ章アーティクルⅠ (川端委員) [資料 65-4-4]

QW185 における試験材の条件がイメージできないため、拡散溶接について調査すべきとの依頼を受け、資料 65-4-4-2,3,4 に基づき、拡散溶接について説明し、各委員の理解を深めた。

- ・ASME の括弧書きの SI 値となっていない箇所があるため、全般的に「ASME 規格値を規格に取り入れる場合の取扱いに関する内規」に従い確認、修正する。
- ・QW-185.1 の文章は、もう少し分かりやすくなるよう修文する。

4) 第Ⅶ章アーティクルⅣ (茂田井委員) [資料 64-8-5]

- ・コメント等はなし。
- ・参考情報：原子力関係の溶接では、材料の区分が P 番号だけで良いのかが問題になっている。

5) 第Ⅶ章アーティクル 1 (長谷川委員) [資料 64-8-6 差替]

T120.1 注 3 の経緯について説明し、コメント等はなし。

6) 第Ⅶ章アーティクルⅡ (樺田委員) [資料 65-4-3]

- ・QW-290.5 SI 単位換算の表記が無い部分の取扱いについて説明。
- コメント等はなし。

(4-3) その他

○「非破壊試験」と「非破壊検査」について

現状規格にて「非破壊試験」と「非破壊検査」という用語が使われているが、「非破壊試験」に統一することについて審議した結果、JIS の用語では、合否判定を行うものが「非破壊検査」、きずの有無等を確認するものが「非破壊試験」と使い分けしているため、これらも考慮し使い方を決めていく方向で構造分科会とも調整することとした。

6. 次回開催予定

- ・ 時間：2015 年 6 月 23 日（火） 13 時 30 分から。
- ・ 場所：日本機械学会 3,4 会議室